

3. 平成 28 年度 関連会議

3.1. 第1回コーディネータ会議

平成27年度本事業の報告および平成28年度本事業夏の実習状況報告のため、第1回コーディネータ会議を以下の通り開催した。

日時：9月9日（金曜日） 15：00～16：45

場所：東京大学農学部フードサイエンス棟第2会議室

出席者：（敬称略）

岩手大学：村上賢二

東京大学：杉浦勝明・尾崎博・山田章雄・綱嶋るみ・舘千恵

東京農工大学：白井淳資

岐阜大学：北川均

日本大学：壁谷英則

日本獣医生命科学大学：落合由嗣

オブザーバー：（敬称略）

文部科学省 高等教育局 専門教育課：草田善之

議事次第：

1. 平成27年度大学における公共獣医事教育推進委託事業（分野1）の報告
2. 平成28年度大学における公共獣医事教育推進委託事業（分野1）の概要報告
 - (1)実習協力機関開発状況
 - (2)実習プログラムの開発状況
 - (3)事前講義プログラムの収録・作成状況
 - (4)現在の実習システムと今後の変更
 - (5)事後評価（アンケート）速報
 - (6)その他（会計報告）
2. 次回会議およびシンポジウムの日程等
3. 大学における公共獣医事教育推進委託事業（分野2）の概要報告
4. 意見交換、その他

会議開始に先立ち、

- ・開会の挨拶(杉浦チーフコーディネータ)
- ・文部科学省担当者挨拶(草田善之氏)

を行った。その後は議事次第に従って会議を進めた。その過程で出された意見等が以下の通り。

【議事概要】

質問・意見	対策案・意見	今後の対応
<p>東北（6県）は特に実習が少ないのでは？</p> <p>※現在参加の自治体は岩手県と福島県のみ</p> <p>〔事務局・東京大・杉浦先生〕</p>	<p>・東北6県の現状についての詳細はわからないため、鎌田コーディネータに伺う。</p> <p>〔岩手大・村上先生〕</p>	<p>鎌田コーディネータが対応予定。</p>
<p>交通費や宿泊費の問題もあるのではないかと？</p> <p>中央畜産会等や自治体独自の研修では出資されているようである。旅費が出ると参加への提案もしやすいのだが。</p> <p>〔農工大・白井先生〕</p>	<p>・事業としては、交通費や宿泊費の対応は不可。自治体によっては独自で支援している所もある。</p> <p>〔事務局〕</p>	<p>事業として対応不可。</p>
<p>《定員充足率グラフについて》機関と自治体で分けたほうがよいのでは？</p> <p>〔東京大・山田先生〕</p>	<p>・自治体のみになると、若干、数値が下がってしまう。国などの機関はほぼ100%の充足率のため、自治体の充足率と考えるとよいと思うが、機関は定員をオーバーしても受け入れてくれていることが多いことが、全体的な定員充足率となっていることは否めない。自治体はまだまだ定員に対しての応募数が少ない傾向がある。</p> <p>〔事務局〕</p>	<p>グラフの示し方については、事務局が検討。</p>

<p>公衆衛生獣医師を生む事業にはなっているのか？ また、就職先との相関はどうか。公衆衛生行政への就職に対する効果は出ているのか。 〔東京大・山田先生〕</p>	<p>・公衆衛生への興味が高まったというアンケートが今年度は特に多く届いていることから、公衆衛生行政への就職への関心も高まっていることが十二分に伺えてはいるが、就職先との相関性を調べることは必要。昨年の実習プログラムに参加した5年生（現、6年生）の就職先を調査する。 〔事務局〕</p>	<p>事務局がVPcamp参加者の就職先調査を引き続き行う予定。</p>
<p>1次募集で不合格だった学生を、どう2次、3次募集で拾っていくか。 〔農工大・白井先生〕</p>	<p>・1次募集で不合格の学生に、空いている実習先の紹介等をしつつ、2次、3次応募への働きかけをしていく。〔事務局〕</p>	<p>事務局が引き続き対応。</p>
<p>全校にコーディネータが必要か。 〔東京大・山田先生〕</p>	<p>・大学内の学生への情報発信者として一人は必要と考える。事務局では全国にまで手を伸ばしきれないことや、地域だからこそそのつながり等を有効活用できる面を考えると必要と思われる。〔事務局〕</p>	<p>引き続き、コーディネータ未設置校（2校）に要請。 〔事務局・東京大・杉浦先生〕</p>
<p>実習側としては4年生以上の参加が望ましいのではないか。 〔東京大・山田先生〕</p>	<p>自治体が独自に参加学年を決定することができている。参加学生を増やすために対象学年を広げたりと、自治体により考え方が違ったりということもあり、事務局としてはなんともいえない面もある。 〔事務局〕</p>	<p>実習先自治体の裁量によるため対応不可。</p>
<p>《事前講義について》 現在69講義と増えているが、それだけの数の必要性はあるのか。 〔東京大・山田先生〕</p>	<p>自治体の要望に合わせて実習前に必要な講義を収録している。他に必要な講義があればお知らせ願いたい。〔事務局〕</p>	<p>今後も必要に応じて事前講義収録を行う。〔事務局〕</p>
<p>《システム構築について》</p>	<p>システム上のセキュリティ設定はシステム開発会社に一任している。システム上からダウンロードしたファイルのセキュリティは、保存先である</p>	<p>セキュリティは常に最新版</p>

<p>事務局内で作業できるよう（予算削減目的含む）にしたとのことだが、情報漏えい等の責任の所在は大丈夫か。</p> <p>〔岩手大・村上先生〕</p>	<p>DropBox の責任、パスワード管理や HDD 等は個人個人の責任によると考えられる。</p> <p>〔事務局〕</p>	<p>に更新する。</p> <p>〔事務局〕</p>
<p>《予算について》</p> <p>国などの機関に消耗品を支給する必要はあるのか。</p> <p>機関と自治体とのバランスはどうか。</p> <p>〔農工大・白井先生〕</p>	<p>国などの機関に対しても各自治体と同じようなところ（金額）で支給している。とりわけ多く支給しているわけではないが、機関は実習人数が多いため、多少、額が大きくなることもある。</p> <p>〔事務局〕</p>	<p>一部に偏りが生じないように今後も対応。</p> <p>〔事務局〕</p>
<p>アドバンスへの移行にあたっては、獣医師会を巻き込んでいく必要があるのでは？</p> <p>〔岐阜大・北川先生、東京大・山田先生〕</p>	<p>獣医師会の協力を求めていく努力は必要であると捉えている。</p> <p>9/21 の全国公衆衛生獣医師協議会での発表は好評で、来年度の発表も依頼された。その他の各団体・学会への協力要請も今後の課題である。</p>	<p>引き続き、杉浦チーフコーディネータが対応。</p>
<p>次回の会議日程について</p>	<p>第 2 回コーディネータ会議および平成 28 年度シンポジウム（分野 1 と分野 2 合同開催）を同日に行う。</p> <p>候補日：平成 29 年 3 月 6 日（月）</p>	<p>事務局が各コーディネータへ連絡を行う。</p>

以上

3.2. 第2回コーディネータ会議

平成28年度のまとめ、そして平成26年度から平成28年度3年間のまとめとして、第2回コーディネータ会議を以下の通り開催した。

日時：平成29年3月6日（月曜日） 12：00～14：30

場所：東京大学農学部フードサイエンス棟第1会議室

出席者：（敬称略）

岩手大学：村上賢二・鎌田洋一

東京大学：杉浦勝明・尾崎博・山田章雄・堀正敏・芳賀猛・綱嶋るみ・舘千恵

東京農工大学：白井淳資・藤川浩

山口大学：豊福肇

宮崎大学：後藤義孝

鹿児島大学：中馬猛久

北里大学：上野俊治

日本大学：壁谷英則

オブザーバー：（敬称略）

文部科学省 高等教育局 専門教育課：辻直人

議事次第：

1. 平成28年度事業概要報告および3年間の推移
 - (1)実習協力機関報告
 - (2)実習プログラムの開発状況
 - (3)事前講義プログラムの収録・作成状況
 - (4)実習参加学生数の推移
 - (5)現在の実習システムと今後の変更
 - (6)事後評価（アンケート）速報
 - (7)その他（会計報告）
2. アンケート集計結果
3. 意見交換、その他

会議開始に先立ち、

- ・開会の挨拶(杉浦チーフコーディネータ)
- ・文部科学省担当者挨拶 (辻直人氏)

を行った。その後は議事次第に従って会議を進めた。その過程で出された意見等が以下の通り。

【議事概要】

質問・意見	対策案・意見	今後の対応
<p>実習の募集要項に合格基準を明確に載せるべきではないか。不合格になった学生は、「二度と応募しない」という気持ちになってしまう。</p> <p>〔農工大・白井先生〕</p>	<p>・自治体は、その自治体周辺出身者を優先して実習に参加してもらい、就職につなげたい意向がある。</p> <p>〔事務局〕</p> <p>・あくまでも実習だから、出身者という基準は外した方がいいのではないか。〔農工大・白井先生〕</p> <p>・自治体としては、最初に合格基準を明記してしまうことで、応募者が少なくなることに懸念を示している。応募者数が定員に満たなければ、出身者以外も合格にするようにしている。〔事務局〕</p> <p>・応募時に第1希望～第3希望を聞き振り分ける方式の方が、まんべんなく自治体に学生を振り分ける事ができ、さらに“応募者のいない実習先”がなくなるのではないか。〔農工大・白井先生〕</p>	<p>合格基準の明記および応募方式については、事務局が検討。</p>
<p>大学間で参加学生数に差があることに何か理由があるか（情報伝達の問題や大学のスケジュール等）。</p> <p>〔東大・芳賀先生〕</p>	<p>・春期 OIE 実習（2月初め）は試験期間とちょうど重なっていた。〔農工大・白井先生〕</p> <p>・春期は夏期に比べると期間が短いことから、試験期間など大学間で差があるものとも調整が難しいのかもしれない。〔東大・芳賀先生〕</p> <p>・OIEのように国際会議に合わせた実習（日程があらかじめ決定しているもの）以外については、各大学のスケジュールを考慮して実習期間を定めている。〔事務局〕</p>	<p>引き続き、各大学のスケジュールを考慮して実習期間を決定する。</p>

<p>H28 年度春期実習において山口大学からの参加者が多かった理由について（山口大学のと畜場実習について）。</p> <p>〔東大・芳賀先生〕</p>	<p>・4年間の間に最低1週間は実習へ行くことを必須とした。特に3年生からVPcampを勧め始め、できるだけ4年生の春休みまでに実習へ行くことを推奨している。そのため、今期は特に山口大学の学生が多かったのではないかと推測している。実習はVPcampだけでなく、熊本県・徳島県・福岡県等に協力を仰ぎ、定期的に学生を受け入れてもらう様にしている。〔山口大・豊福先生〕</p>	<p>応募者については引き続き対応する。</p>
<p>宮崎県へ実習受入の交渉に行ったが、断られた。</p> <p>〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>・宮崎県独自開催の実習があるため、宮崎大の学生の受入も困難とのこと。〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>引き続き、自治体と協議する。</p>
<p>地方大学の学生が他地域の实習先へ行くための滞在費・交通費について。</p> <p>〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>・夏期に行われる機関での実習など、参加したい学生もいるが、1週間の滞在費・交通費の面から困難な学生が多い。〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>現状は、学生への滞在費・交通費の支給は困難。費用を負担してでも参加したくなるような魅力的なプログラムの開発に努めるしかない。</p>
<p>大学によって、実習の状況に格差が出てきている。</p> <p>〔東大・山田先生〕</p>	<p>・帯広大と北大は牧場を作るとと畜場実習を行えるようになってきているが、そういった大学の学生についてはVPcampを取り入れる必要性が無いのではないかと推測している。〔東大・山田先生〕</p> <p>・VPcampは単にと畜実習・技術研修を行うのではなく、各自治体の特色ある行政体験をする意味合いも含んでいる。〔事務局〕</p>	<p>今後の検討課題。魅力的なプログラムの開発に努めると共に、マッチングの方法を改善する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある実習に惹かれて応募者が多くなる一部の自治体実習があり、不合格者は実習に参加しなくなることもある。今後事業を発展させて行く上でどのような方向へ持ってゆくべきか議論するべき。〔東大・山田先生〕 	
<p>今期で特に応募者の多かった自治体はどこか。その理由は。 〔山口大・豊福先生〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今期は京都府、兵庫県、福岡市が特に応募者が多かった。応募者多数の理由については今後解析する〔事務局〕 ・応募者が少ない自治体の原因として考えられることの一つに実習先の立地がある。レンタカー等を利用して自力で向かわなければならない所もある。〔事務局〕 ・自治体等でそれらを改善しなければ、応募者数の改善にはつながらない。〔東大・山田先生〕 ・応募者の少ない自治体については、地域偏在と結びつくところがあり、自治体の望む「リクルート」の面と「教育」の面をどのようにコミットしてゆくか、協力体制を整えてゆくかが課題。〔東大・芳賀先生〕 	<p>実習先の応募状況は今後解析し、結果を公開する。 自治体側で改善の余地があることについては、事務局と協議してゆく必要がある。</p>
<p>大学院生も実習参加可能なのか。 〔東大・芳賀先生〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生も参加可能。特に OIE の実習に参加する学生には大学院生が多い。東大からだけでなく、過去には他大大学院生も参加している。〔事務局・東大・杉浦先生〕 	<p>引き続き、大学院生にも情報周知してゆく。</p>
<p>今年度春期の実習では実習先が増えたが、応募者数も大変増加した。学生にとっては、春期の方が参加し易い等、何か条件・理由は考えられるか。 〔事務局・東大・杉浦先生〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2月に4年生の食品衛生学の講義があり、特にVPcampを勧めているため春期の応募が多くなった可能性がある。〔山口大・豊福先生〕 ・春期は自治体の人事異動の時期と重なるので、実習困難となる自治体も多い。〔農工大・藤川先生〕 ・夏期に独自のインターンシップを行っている自治体も多いが、その分春期に時間を取れる自治体も多いのではないかと。ただし、期間としては2月中旬か 	<p>受入側の困難を承知の上で、今後とも春期の実習先をより充実してゆく。</p>

	ら3月中旬までが限度だと思われる。〔山口大・豊福先生〕	
鹿児島大からの応募が無かったことについて。 〔鹿児島大・中馬先生〕	鹿児島大の学生は鹿児島県に独占で実習を依頼したために、応募が無かった。また、鹿児島県側もVPcampに協力することは困難だった。〔鹿児島大・中馬先生〕	鹿児島大では今後も同様の実習形態となる。
追加アンケートの回答をみると、実習の効果が得られていないという結果なのではないか。学生のマインドは変えられていないのでは。 〔東大・山田先生〕	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度春の実習前、実習後アンケートをみなければ、まだ正しい結果は分からない。〔東大・山田先生〕 ・公衆衛生に興味のある学生がVPcampに参加しているのだから、実習の前後で意見が変わらないのは普通ではないか。〔農工大・白井先生〕 ・「本庁」への興味を持った学生が増えたことは、行政に興味を持ったということで意義があったのではないか。職の全体像が見えたのではないか。〔東大・芳賀先生〕 ・「本庁」に興味が増えたのは、立地が良かったからではないか。〔農工大・白井先生〕 ・公衆衛生行政に携わる人員不足からこの事業が始まったことを考えると、その部分へは貢献できていないのではないか。学生への大きな影響力は無いのではないか。学生の希望と職（採用有無）のマッチングが重要。〔東大・山田先生〕 ・公務員獣医師の人員不足は地域偏在と大きく関わっており、学生の募集の段階でそれが反映されていると考えられる。それをどう改善してゆくかを課題として考えてゆくべき。〔東大・芳賀先生〕 ・公務員獣医師としての就職に迷っている学生の意識変化を今後見てゆくべき。〔東大・尾崎先生、山田先生〕 	実習前後のアンケートだけではなく、実習参加学生の就職先を引き続き調査することで、学生の意識変化・行動変化を見る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に参加した学生の就職先を調査することで、意識変化・行動変化を見るべき。〔東大・山田先生〕 	
<p>地域偏在をどのように改善してゆくのか。〔農工大・白井先生〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地方再生と一体化している問題であり、地域の特徴を活かす地元の努力が必要。例えばと畜場にて扱う地域特有の動物をアナウンスするなど。自治体の努力と、事業予算の改善等をしてゆく必要がある。〔東大・芳賀先生〕 ・過去には、実習に参加したことで職場の雰囲気や人間関係が気に入りに、出身県以外に就職した学生の事例もある。そのため、応募者の少ない自治体へ学生を送って現場を体験してもらう必要性も高い。〔事務局・東大・杉浦先生〕 ・どうしたら学生に実習へ行ってもらえるか、を考えてゆくべき。〔東大・芳賀先生〕 ・やはり、学生へ実習先の第1希望～第3希望を集めて振り分ける方式が有効ではないか。〔農工大・白井先生〕 ・交通費と滞在費を自身で払って実習へ行く学生へ、興味の薄い実習先へ行かせる事も問題ではあるから、学生への資金援助等、大きく改善してゆく必要がある。色々な機関を巻き込んでゆく必要がある。〔東大・芳賀先生〕 	<p>学生の募集方法や周知方法など、後継事業への課題とする。</p>
<p>次年度以降の事業について。〔北里大・上野先生〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後継事業をどこが運営してゆくか(大学、獣医師会、他機構など)は分からないが、本事業で構築したシステム、課題を引き継いで発展させてもらえたらいいのではないか。〔事務局・東大・杉浦先生〕 ・全国に散らばるような実習を各大学に任せるのは秩序が保てなくなる可能性がある〔東大・尾崎先生〕 ・実習先と学生とのマッチングを改良し、地域偏在の解消するシステムや、学生の意識変化を促す方法を考えて後継事業を進めてゆくのが良いのではないか。〔東大・山田先生〕 	<p>課題をまとめ、後継事業へ活かしてゆく。</p>

<p>学生の経済的な負担について。 〔農工大・藤川先生〕</p>	<p>・単位認定をしている大学もあるが必修の実習ではないのに、実習へ参加するための滞在費や交通費を学生が自己負担するのは厳しい。自己負担が大きいと、学生は出身県への実習へ行く(実家を利用して実習へ参加する)割合が高くなり、他地域へ赴くことに躊躇する。後継事業ではその部分を考慮されることに期待。〔農工大・藤川先生〕</p>	<p>後継事業でも滞在費などを負担することは困難〔文科省・辻様〕。</p>
<p>学生応募時の記入項目について。 〔北里大・上野先生〕</p>	<p>・参加する実習先を就職先として希望しているかどうか、を記入する項目を設けてはどうか。〔北里大・上野先生〕</p> <p>・現状は、志望動機の中に「就職先として希望している」といったことを学生が書き込んでいる。〔事務局・東大・杉浦先生〕</p>	<p>検討する。</p>
<p>アンケート項目について。 〔山口大・豊福先生〕</p>	<p>・「働きたいと思う施設」の選択項目は、動物愛護センター、家畜保健衛生所、保健所、食肉衛生検査所、畜産試験所、地方衛生研究所、本庁、その他とするべき。〔山口大・豊福先生〕</p>	<p>次回のアンケートから修正する。</p>
<p>1, 2年生の参加者が少ないことについて。〔岩手大・村上先生〕</p>	<p>・小動物臨床を志して入学して間もない1, 2年生に対して、公衆衛生行政の社会的な重要性を知らせる方法(方向性)を考えてゆくべき。5年生の参加者が多いが、この学年はほぼ将来の方向性が決まってくる時期である。方向性が決まる前(低学年)に対してより周知してゆくべき。〔岩手大・村上先生〕</p> <p>・事業の目的が「高度な実習を行う」ことであることから、自治体において、高学年をメインにしている事情がある。〔事務局・東大・杉浦先生〕</p> <p>・自治体側にも意識を変えてもらい、低学年向けの実習プログラムを作成してもらった必要性がある(early exposure)。〔東大・山田先生、杉浦先生〕</p> <p>・実習に参加することで現場を知った上で就職活動ができる。他業種に就職しても、その後に公衆衛生行政(地方公務員)へ転職しようと思う人もいるはず。</p>	<p>後継事業での検討課題。</p>

	〔山口大・豊福先生、農工大・白井先生〕	
<p>事前講義の利用方法について。4, 5年になる前に実習参加を勧めるアプローチの1つとして使えないか。</p> <p>〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>・低学年向けの事前講義を作成し、広く見てもらってはどうか。事前講義だけでも見たいという学生の声もある。〔農工大・白井先生〕</p> <p>・VPcamp は文科省の事業のため、一定の趣旨の下で事業を行わなければならないが、他の機関が事前講義等を利用するといったことは可能だと考えられるので、今後発展してゆくことはできると考えられる。〔事務局・東大・杉浦先生〕</p> <p>・学生のモチベーション作りのために、各自治体のコマーシャルVTRを作成して流してみてもどうか。〔東大・芳賀先生〕</p> <p>・VTR を作るならば仕事内容だけではなく地域の特色、良さを含んだもの(学生が興味を持つような映像)を作るべき。〔農工大・白井先生〕</p>	<p>後継事業での検討課題。</p>
<p>自治体への実習消耗品提供について。</p> <p>〔宮崎大・後藤先生〕</p>	<p>・自治体側では、通常業務内で使用する消耗品については提供が無くても困らない。学生の滞在費の支援が必要、との声がある。〔宮崎大・後藤先生〕</p> <p>・文科省の委託事業内では学生個人への実習滞在費の支援が困難。〔文科省・辻様〕</p> <p>・個人宛ではなく、自治体へ渡して学生の支援に回してもらえないのか。〔農工大・白井先生〕</p>	<p>学生が“自己負担があっても参加したい”と思うような実習プログラムを作成してゆく。後継事業での検討課題。</p>

以上

3.3. シンポジウムの開催

平成 29 年 3 月 6 日、「日本の次世代獣医師を育成するために PART 3」のタイトルで、シンポジウム（獣医学教育実習サミット）を開催した（参加者約 40 名）。文科省課長補佐辻直人氏による特別講演に続き、分野 2 のチーフコーディネータと共に本事業の平成 28 年度の実績報告および 3 年間の事業推移報告を行った。また、分野 1 の実習実施機関を代表して、京都府生活衛生課の実習窓口担当者、日本養豚開業獣医師協会（JASV）理事、そして国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域代表が登壇し発表を行った（表 3-1）。

表 3 - 1 シンポジウムのプログラム

15 : 00～	<p><特別講演></p> <p>「獣医学教育の改善・充実に向けた取り組みについて」</p> <p>辻直人（文部科学省 高等教育局 専門教育課 課長補佐）</p>
15 : 30～	<p>「大学における公共獣医事教育推進委託事業」事業概要と今年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉浦勝明（東京大学 教授・分野 1 チーフコーディネータ） ・大場恵典（岐阜大学 教授・分野 2 チーフコーディネータ）
16 : 00～	<p><実施機関からの報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道内の NOSAI における臨床実習の現状と課題」 廣田和久（北海道農業共済組合連合会 家畜部長） ・「「おこしやす京都」京都府公衆衛生獣医師体験実習事業」 水谷敢太郎（京都府生活衛生課 食品衛生担当） ・「NOSAI 岡山の臨床実習の現状と課題」 植月義友（岡山県農業共済組合連合会 家畜部長） ・「JASV で VPcamp」 藤原孝彦（日本養豚開業獣医師協会(JASV)） ・「家畜保健衛生所における行政体験研修の実施状況と課題」 山本雅夫（愛知県中央家畜保健衛生所高度病性鑑定課 課長） ・「獣医学教育の国際化と O I E の取組について」 釘田博文（国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所代表）
18 : 00	閉会

3.4. 第 105 回全国獣医系大学関係代表者協議会への報告

平成 28 年 9 月 5 日に開催された第 105 回全国獣医系大学関係者代表者協議会において、平成 28 年度本事業の夏期実習報告（事業概要、実習システム構築、広報活動、参加学生の傾向）を行った。また、コーディネータが設置されていない大学に対し参加協力依頼を行った。

3.5. 第 106 回全国獣医系大学関係代表者協議会への報告

平成 29 年 3 月 27 日に開催された第 106 回全国獣医系大学関係者代表者協議会において、平成 28 年度本事業の報告（事業概要、実習システム構築、広報活動、参加学生の傾向、夏期実施アンケート集計結果）および、3 年間（平成 26 年度から平成 28 年度）の事業推移報告を行った。

3.6. 全国公衆衛生獣医師協議会への報告

平成 28 年 9 月 2 日に開催された平成 28 年度調査研究発表会において、平成 28 年度本事業の報告（事業概要、実習協力機関・参加学生数の傾向・アンケートの集計結果）を行った。

4. 平成 26 年度から平成 28 年度の推移

4.1. 広報活動

平成 26 年度に「獣医学生のための実習インターンシッププログラム」の愛称「VPcamp」を作成し、全国獣医系 16 大学へのポスター掲示依頼や学生への VPcamp Book（参加学生のための手引書）配布を行った（表 4-1）。

平成 27 年度からは夏期と春期の 2 回に実習時期があったため、それぞれの実習募集期間に合わせて情報の周知活動を行った（表 4-2）。夏期実習募集前には A1 版ポスターを作成して全国獣医系 16 大学へ配布し情報周知を行った。また、夏期実習と春期実習の間には A4 版見開きのチラシを作成し、学生と自治体へ配布した。春期実習の募集開始前には、実習への応募から参加までの流れと平成 28 年度のカレンダーが記載されている B7 版 VPcamp Book を作成し、全国獣医系 16 大学の 1～5 年生に配布。さらに平成 28 年度のカレンダーが記載されている A4 版クリアファイルを全国獣医系 16 大学の 1～5 年生に配布し、平成 28 年度の実習に向けた情報の周知を行った（図 4-1）。

平成 28 年度においては、実習の具体例や実習先例が記載された学生向けの三つ折りパンフレットを作成し、夏期実習および春期実習の学生募集期間前に合わせ、全国獣医系 16 大学の全学生へ配布した（表 4-3）。また試みとして、実習時期が他実習先と比べて変則的である国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域事務所の実習については、別途 A4 のチラシを作成し、夏期実習においては東京大学農学部獣医系研究室へ配布、春期においてはコーディネータを通じて全国獣医系大学へ配布を行った。

このように、学生の認知を上げるため、年 1 回ではなく、募集時期に合わせた情報周知活動を行った。

表 4 - 1 平成 26 年度年間スケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
VPcamp スケジュール										募集	実施	実施
製作物の実績										VPcamp Book		
上記製作物の配布 対象										1～5 年生		
他 活動									ホームページの作成・公開・更新、 シンポジウム（3月）			

表4-2 平成27年度年間スケジュール

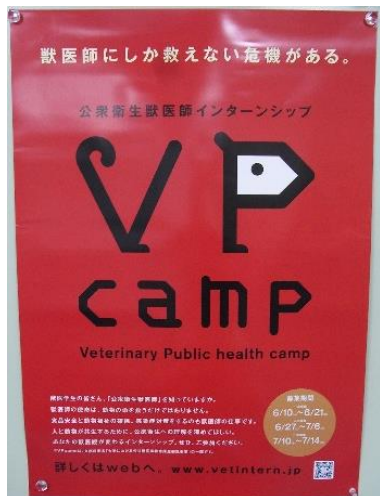
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
VPcamp スケジュール			募集	募集	実施	実施				募集	実施	実施
製作物 の実績		A1版 ポスター					A4版 チラシ		VPcamp p Book	VPcamp Book	クリア ファイル	
上記製作物 の配布対象		16大 学					※		3～5 年生	1～2 年生	1～5 年生	
他活動	ホームページ修正・更新、Facebookページ開設・更新、シンポジウム（3月）											

※都道府県保健所 46箇所、政令指定都市 18箇所、都道府県畜産課 47箇所、
（獣医系大 16箇所）

表4-3 平成28年度年間スケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
VPcamp スケジュール			募集	募集 実施	実施	実施			募集	募集	実施	実施
製作物			パンフ レット						パンフ レット			
配布対象			全学生						1～5 年生			
他活動	ホームページ改修・更新、Facebook更新、シンポジウム（3月）											

・ A1 版ポスター



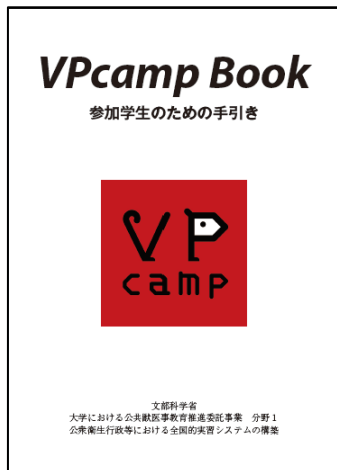
平成 27 年 5 月
100 部印刷
16 大学で掲示

・ A4 版見開きのチラシ



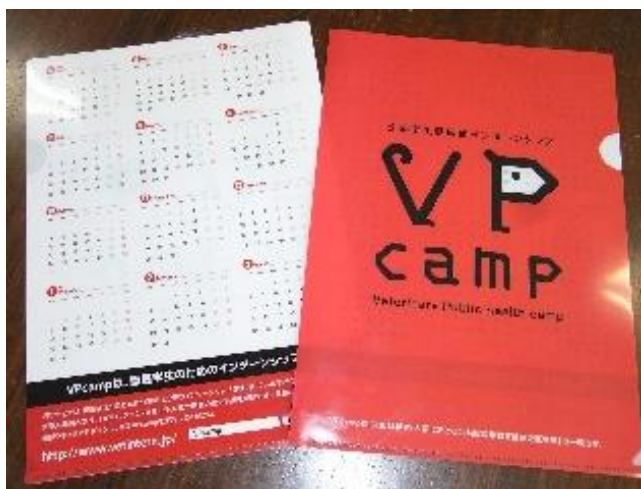
平成 27 年 10 月
4000 部印刷
全国自治体および学生へ配布

・ B7 版 VPcamp Book
(参加学生のための手引き)



平成 27 年 12 月および平成 28 年 1 月
計 6000 部印刷
16 大学 1～5 年生へ配布

・ A4 版クリアファイル



平成 28 年 2 月
計 6000 部作成
16 大学 1～5 年生へ配布

図 4 - 1 平成 27 年度配布物

4.2. 実習協力機関数の推移

平成 26 年度は 8 県・2 都市において実習を実施し、平成 27 年度夏期は 13 府県・3 都市・8 国等の機関、平成 27 年度春期は 8 道府県・2 都市において実習を実施した（表 4-4）。

平成 28 年度夏期は、23 府県、19 都市および 9 国等の機関の、合計 51 機関が受け入れ機関となり、平成 28 年春期には、12 道府県・9 都市・2 国等の機関の合計 23 機関が受け入れ機関となった。

表 4 - 4 平成 26 年度および平成 27 年度の実習協力機関

平成 26 年度	<p>8 県・2 都市</p> <p>長崎県、埼玉県、千葉県、鹿児島県、群馬県、徳島県、愛媛県、広島県、札幌市、北九州市</p>
平成 27 年度夏期	<p>19 府県・5 都市・8 国等の機関</p> <p>福島県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、奈良県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、札幌市、旭川市、新潟市、豊田市、北九州市、国際獣疫事務局（OIE）、動物検疫所、動物衛生研究所、国立感染症研究所、動物医薬品検査所、農林水産消費安全技術センター（FAMIC）、東京農工大学農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター、日本中央競馬会（JRA）</p>
平成 27 年度春期	<p>10 道府県・2 都市</p> <p>北海道、群馬県、埼玉県、長野県、岐阜県、京都府、山口県、徳島県、愛媛県、鹿児島県、越谷市、倉敷市</p>

国などの機関

- ・国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域事務所
- ・動物検疫所
- ・農研機構動物衛生研究部門
- ・国立感染症研究所
- ・動物医薬品検査所
- ・農林水産消費安全技術センター（FAMIC）本部
- ・農林水産消費安全技術センター（FAMIC）福岡センター
- ・東京農工大学農学部附属国際家畜感染症
防疫研究教育センター
- ・日本中央競馬会（JRA）
- ・日本養豚開業獣医師協議会（JASV）

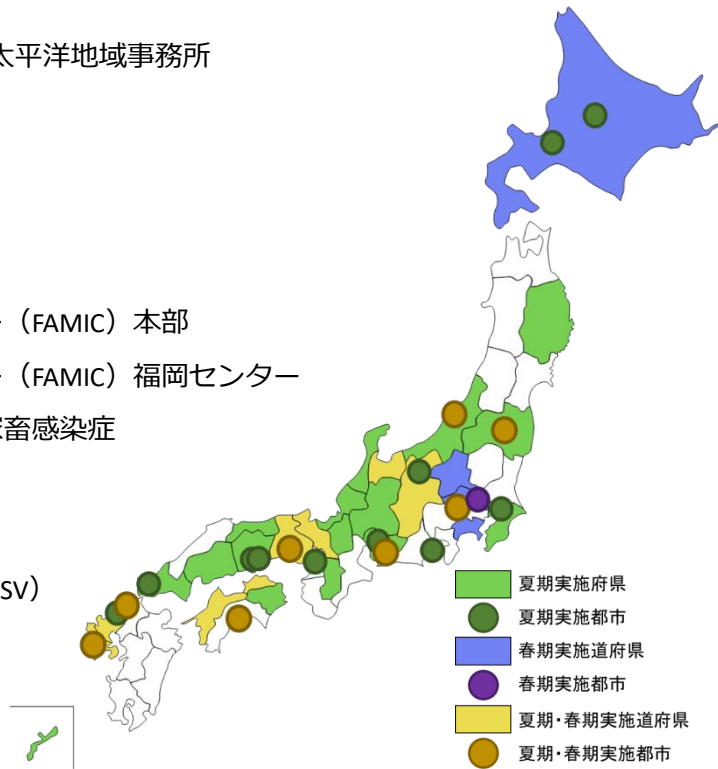


図 4 - 2 平成 28 年度実習プログラム実施自治体

表 4 - 5 実習協力機関数の推移

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
実習協力 機関数	8 県・2 都市	23 道府県 7 都市 8 国等の機関	28 道府県 20 都市 10 国等の機関
		夏期： 19 道府県 5 都市 8 国等の機関	夏期： 23 道府県 19 都市 9 国等の機関
		春期： 10 道府県 2 都市	春期： 12 道府県 9 都市 2 国等の機関

<平成 26 年度>

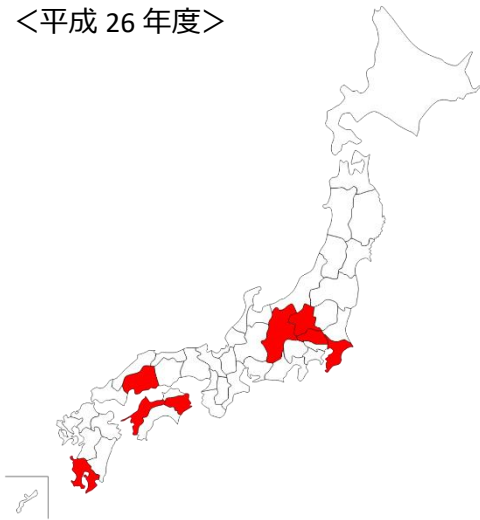
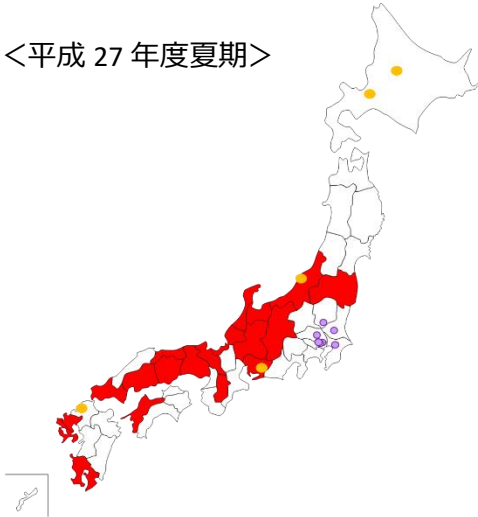


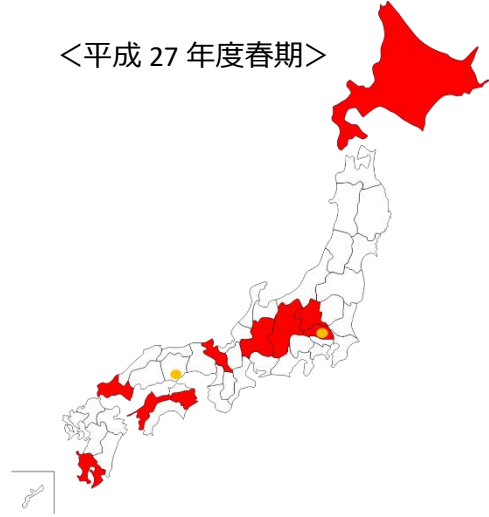
図4-3 協力機関の推移

- 府県
- 市
- 国などの機関

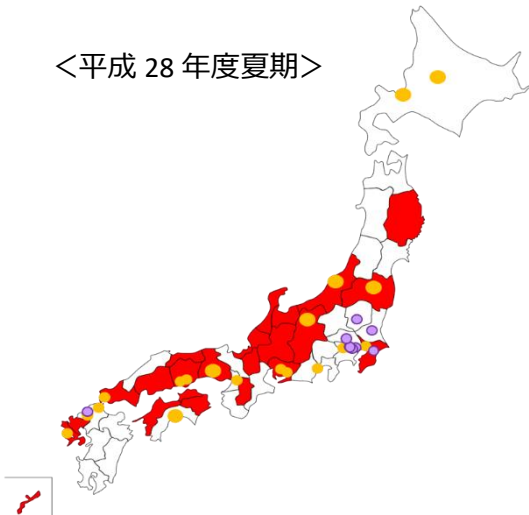
<平成 27 年度夏期>



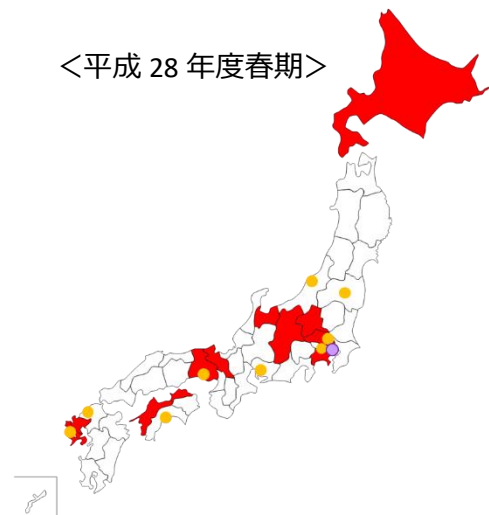
<平成 27 年度春期>



<平成 28 年度夏期>



<平成 28 年度春期>



平成 26 年度から平成 28 年度までの実習協力機関数を実習期間別に比較をすると、夏期実習は実習教職機関数が約 1.6 倍に増加し、春期実習は実習機関数が約 2 倍に増加した（図 4-4）。また、年度毎に比較をすると、3 年間で実習協力機関数は約 5.7 倍に増加した（図 4-5）。

実習協力機関数が増加したのは、全国都道府県および政令市・中核市に対して実習の協力を呼び掛けたこと、「VPcamp」の愛称が自治体内でも認知されてきたことによる。

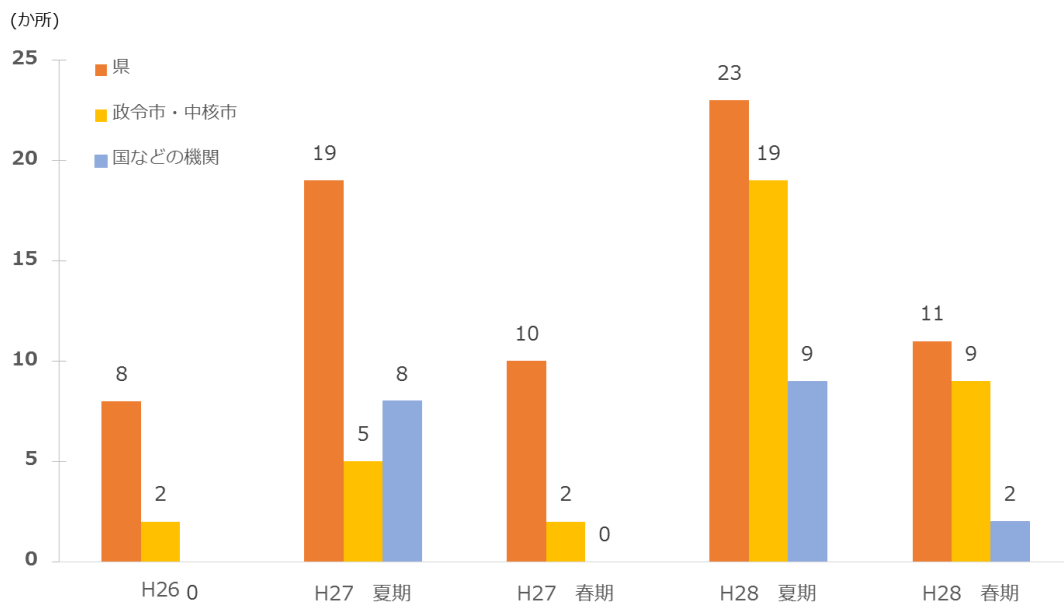


図 4 - 4 平成 26 年度から平成 28 年度までの実習協力機関数推移〈実習期間別〉

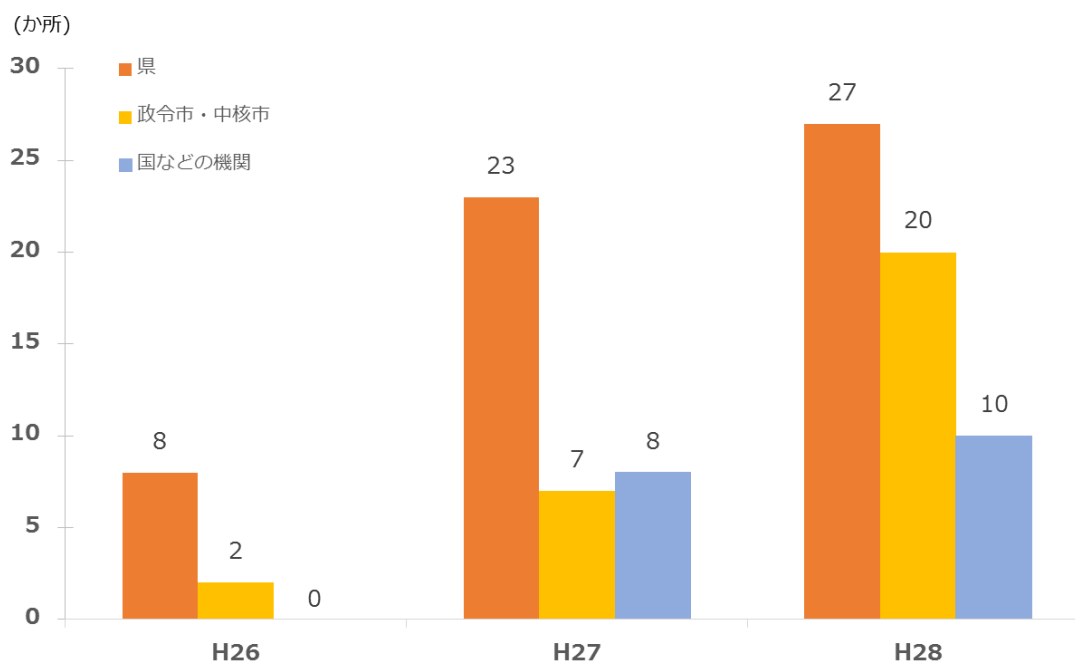


図4-5 平成26年度から平成28年度までの実習協力機関数推移<年度別>

4.3. 実習参加学生数の推移

平成26年度から平成28年度までの募集人数、応募学生数、参加学生数の推移をグラフに示す。実習期間別に比較をすると、募集人数、応募学生数、参加学生数ともに夏期実習において約1.3倍に増加し、春期実習において約3倍に増加した(図4-6)。年度毎に比較をすると、募集人数、応募学生数、参加学生数ともに3年間で参加学生数が10倍に増加した(図4-7)。

学生数増加の要因として、募集時期に合わせた情報周知活動やWEBやメールリングリストを活用した情報拡散が考えられる。また、学生間における先輩から後輩への情報伝達や友人間の情報交換等も大きく関わっている。

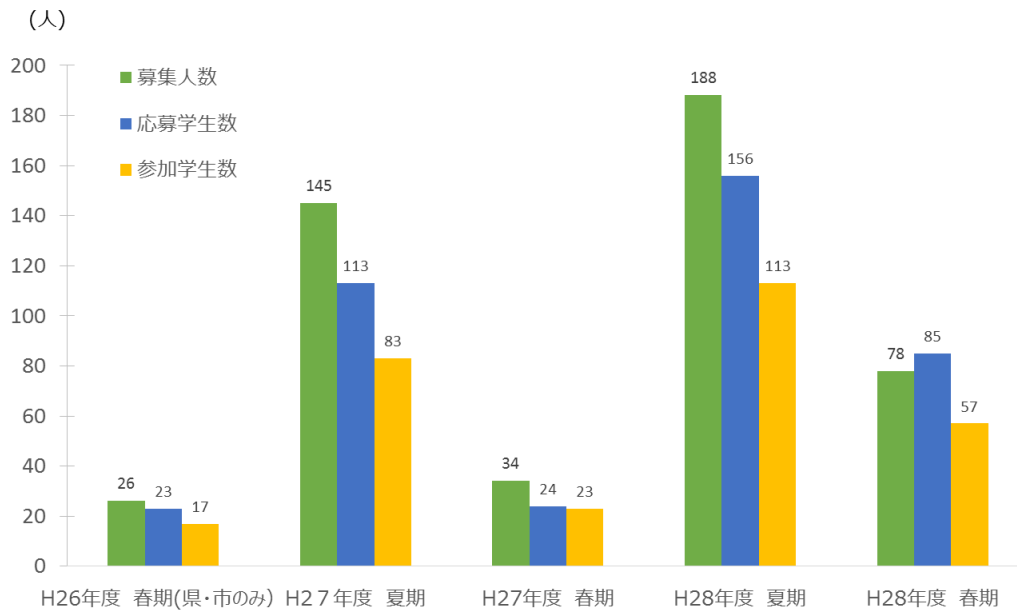


図 4 - 6 平成 26 年度から平成 28 年度までの参加学生数推移<実習期間別>

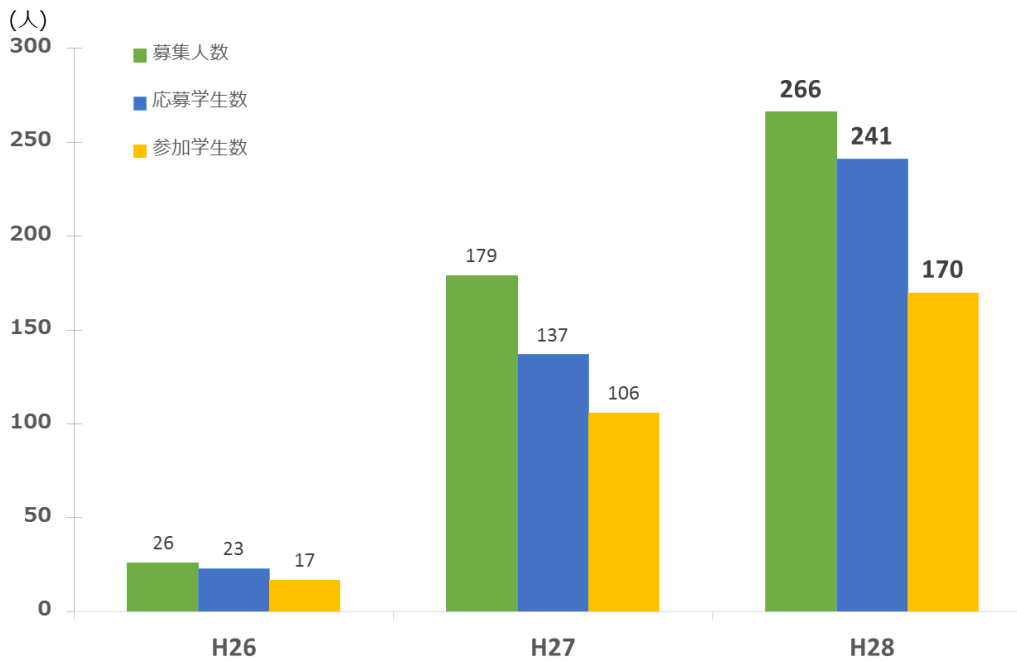


図 4 - 7 平成 26 年度から平成 28 年度までの参加学生数推移<年度別>

平成 26 年度から平成 28 年度における、実習充足率（募集人数に対する参加学生数の割合）を示す（図 4-8）。平成 28 年度春期実習において 70%以上の充足率を初めて達成した。

夏期および春期で分けて年度毎に比較すると、夏期および春期実習共に実習充足率は年々増加傾向にあることが分かった。

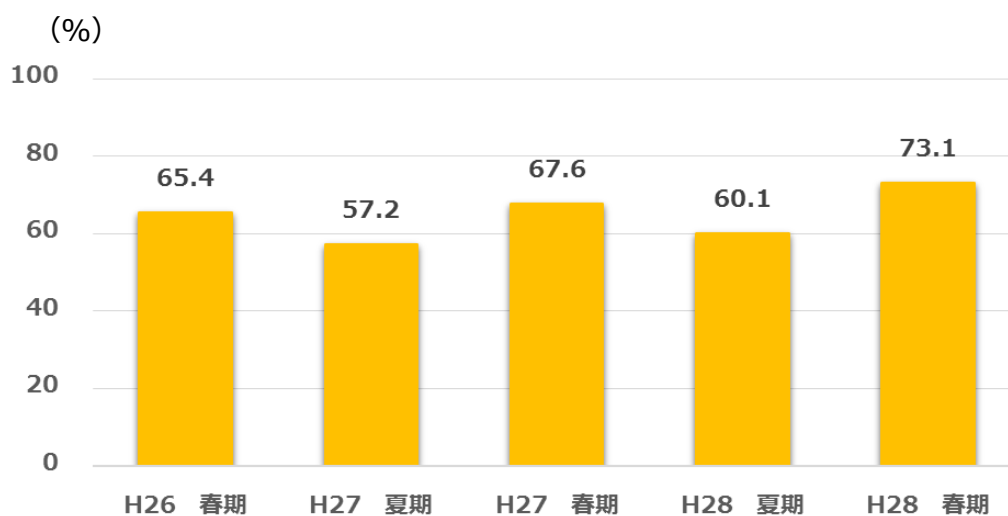


図 4 - 8 平成 26 年度から平成 28 年度までの実習充足率

5. 今後の課題

5.1. 実習協力機関拡充の必要性

夏期実習期間においては自治体独自開催のインターンシップが多く実施されているため、本事業への協力が困難な自治体が多くある。一方で、春期実習期間においては実習を確保することが可能であると考えられることから、今後、春期実習における実習協力機関を開発することが実習先を広げてゆく上で必要であると考えられる。しかしながら、春期実習期間は、自治体内における人事異動等の時期とも重なっていることから、実習時期については自治体側との検討が必要である。

参考として、実習協力機関から寄せられた本事業以外で実施している実習の概要を以下表 5-1 に示した。

表 5 - 1 本事業（VPcamp）以外で実施している実習

	VPcamp 以外に実施している実習
佐世保市	個別に依頼があれば可能な限り対応。実施主体やテーマはVPcampと同様。4～6年生、2名程度/回を想定。
群馬県	各獣医系大学から個別依頼。家畜衛生対策推進協議会の行政体験研修（公務員獣医師（公衆衛生、家畜衛生）としての業務内容把握）。2年生・3年生・5年生対象、8月・9月・3月実施。
長野県	実習の内容は同じだが、設定した日時が合わない学生からの個別依頼実習を実施（3月中旬）。
国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域事務所	インターンシップは、教官や学生から依頼があれば、人数、時期、テーマ等学生側からのニーズにこたえて柔軟に受入。
鳥取県	家畜衛生学実習：家畜保健衛生所の見学 5年生対象（35名） 大学教育導入演習：1年生対象（35名）
兵庫県	中央畜産会主催の産業動物の就業研修。 8月下旬～9月上旬実施、1～5年生対象、募集は数名 家畜保健衛生所業務を中心に食肉衛生検査所等の見学などもあり。
岡山県	中央畜産会主催の研修。8～9月実施、2～6名程度募集。
長野県	実習の内容はVPcampと同様だが、当県で指定した学年以外からの依頼も受入（大学院生等）。
北海道	中央畜産会主催の研修（家畜衛生に係る行政体験研修）。 夏期休暇期間（5日間）に実施、5名程度募集、3～5年生対象。
鳥取県	中央畜産会主催の行政体験研修（農林のみ）（家畜保健衛生所実習）。 8月に実施、2名募集、1年～5年生対象。

	自治体・機関で独自開催している実習
群馬県	群馬県庁インターンシップ 8月～9月実施、約90名募集、主に3年生対象。
農林水産省動物検疫所	就業体験実習生の受入（毎年度夏季に約50名募集、4～5年生対象）。

札幌市	VPcamp と同時期開催、関係職場をめぐる見学会を実施。20名程度募集。
福岡市	福岡市獣医師インターンシップ事業（獣医学生対象）を実施。 夏期（8月～9月）及び冬期（2月～3月）実施、1回に2名程度募集、 4～6年生対象。
石川県	夏期実施、5名募集、3～5年生対象
兵庫県	学生からのインターンシップ個別申し込みに対応（公衆衛生担当・畜産担当）。 夏期休暇期間に実施、1～2名程度募集、4～5年生対象。
岡山県	学生からの個別申し込みに対応。夏期休暇期間（1～3日間）を中心に実施、 1～3名募集。
長野県	随時受付。テーマ等はVPcampと同様。
北海道	・短期研修 石狩または十勝家畜保健衛生所において、8月第3週2日間実施。各5名程度募集。 家畜衛生に興味を持つ獣医学生（2～5年生）対象。 ・個別研修 道内14か所の家畜保健衛生所において、7～9月実施。 家畜衛生に興味を持つ獣医学生（原則4～5年生）及び大学院生対象。
奈良県	学生からの個別申し込みに対応。学年は不問、5日間程度実施。
愛媛県	愛媛県インターンシップ。 時期、募集人数、学年は受入れ施設によって異なる。
鳥取県	鳥取県獣医師職場体験研修 8月～9月実施、12名募集、4～5年生対象。

5.2. 実習システムの更なる改善の必要性

5.2.1. 学生からの意見

学生から寄せられたWEBシステムに関する意見および事前講義に関する意見はそれぞれ表5-2および表5-3の通りである。

WEBシステムについては、画面の仕様や操作方法、情報公開に関して意見が多かった。

また、事前講義については、動物の扱い方等実習現場において活かせるものを希望する意見が見られた。

表5-3 WEBシステムに関する学生からの意見

<平成28年度夏期>

使いやすい点	使いづらかった点
場所別、内容別で検索できたところ。	過去にどのような実習をしたのか日程や感想などを掲載してあると選ぶときに便利。
応募の際に、今自分がどの段階まで進んだかが大変わかりやすかった。 事前視聴動画では各テーマがわかりやすくまとめてあったので、研修内容に合わせた動画を視聴することができた。	動画視聴のためのパスワードがメールに記載されていたものだけだったので、最初どこにパスワードが書かれていたのか気づかなかった。 スマホでみると、各県の要項が小さいので押し間違えたり、戻るボタンで最初の段階に戻ってしまったので、もう少し行間をあけてもらえたら大変ありがたかった。 マイページから視聴パスワードがみられるようなシステムにしてもらえたらとてもありがたいと思った。
入力フォームが途中でも保存出来て、後日続きが書けるところ。	
	参加決定後の保険の証明書の画像ですが、一枚に収めるのが少し大変。
見出しで自分が選ぶべき項目が選びやすい。	ログインしたページの内容が浅い点。ログインしたページにも VPcamp や実習先からの連絡事項を載せて欲しい。追加情報を間違った内容を送ってしまったが、訂正ができない。
ホームページ自体には複雑なところがなくてわかりやすかった。	応募自体はすぐできて良かったが、その後の実習先からの連絡がいつくるのかわからなくて困った。
自治体、実習内容別に検索できるところ。	1次、2次、3次募集とあって応募しづらい。手続きが煩雑であること。自分が参加することになった自治体のページをすぐ開けるようにしてほしい。
応募までの流れはわかりやすかった。	必要書類がある場所を探すのが大変。(誓約書等)
都道府県、国の機関というふうにおおまかにジャンルわけされているので、興味がある分野を探するのはやりやすかった。	スマートフォンから閲覧すると、実習内容が見にくくなってしまっているので、スマートフォン専用画面のようなものがあると嬉しい。保険加入証明を提出する方法をウェブだけでなく郵送という選択肢があってもいいのではないか。
初めての方、応募する方、参加が決まった方、と利用者の用途別に項目を分けているので、利用しやすかった。	募集開始期間が明記されていなかったため、いつから応募していいのかがよくわからなかった。
「実習参加が決まった方へ」のリンクが使いやすかった。	
初めての方へ、応募する方へ、参加が決まった方へ、が分かれていて、知りたい情報を探しやすかった。項目が少なく端的でわかりやすかった。	服装に「学生らしく清潔な服装を心掛けましょう。」と書いてありましたが、具体的にわからない。仕方がないことでしたが<保険加入証明書の画像について>に手間がかかった。参加した実習先の実習プログラムが、「参加が決まった方へ」の項目ですぐに見られたらもっと便利。
目的のトピックが探しやすく、見やすいホームページだった。	
検索がしやすい。	
実習場所、内容で検索できる点は使いやすかった。	動画が見れないことがあった。応募した実習に受かったことが分かりにくかった。

With the English guidance, I was able to apply without any problem.	Please make an English version of the site if possible.
実習参加が決まった人に対するメニューや案内がわかりやすくできていたので、手続きなどで迷うことはなかった。	参加を応募するまでの登録などが若干難しく感じた。初めに登録などが必要であった点。自分が追加募集のチラシを見て実習の存在に気づいたように、VPcampのホームページを見てどのような実習があるか気づくといった人は少ないのではないかと感じる。実習一覧をもっと見やすくするか、メール等で知らせてくれる機能があると良い。

<平成 28 年度春期>

使いやすかった点	使いづらかった点
個人受付で申し込む学生を受け入れることがある点。	
すんなりと実習に行けた点。	特にない。
応募から参加までの流れがとてもスムーズだった点。	
応募は web 上で済ませられるので気軽にできた点。	大事なこともかもしれないが、登録など入力項目が多い点。
メールでの説明も詳しく、分かりやすかったため特に疑問もなく参加できた点。	特にない。
ネットで簡単に申し込めた点。	特になし。
VPcamp 事務局の対応が丁寧で迅速である点。	
ちゃんと実習先に電話をかけるよう指示されたことなど、実習先への誘導がスムーズだった点。	
締め切りから決定までが早かった点。	
応募期間終了後すぐに結果が出た点。	
応募後の流れがわかりやすく、必要なものも用意しやすかった点。	パソコン対応であると、実習の可否を見るのが少し面倒な点。
やり方がフローチャートでまとまっていて理解しやすかった点。	特になし。
入力フォームの内容を一時保存できた点。	保険加入証明の送付期間がやや短かったように感じた点。
当局からこまめに連絡が来るのが丁寧だった点。	
大学を通さずに、ホームページから申し込みが出来た点。	特に無い。
	情報の伝達不足。具体的には実習の日程などを全てメールで行っていて一部メールが届いていないと他の実習生と会話して感じられた点。
すぐにお返事がいただける点。授業の関係で途中抜けしたいという要望に丁寧に対応してもらえた点。	

事務局の方と直接連絡を取れる点。 応募の際に誤った記入をしてしまったが、メールでご指摘を頂いた点。	保険加入証明書の提出が必須であるが、実習受入決定から提出まで1週間しかなく、証明書の事務手続きの関係でギリギリであったこと。
--	--

表5-3 事前講義に関する学生からの意見

<平成28年度夏期>

実習に関して、あればいいなという講義	実習に関係なく、あればいいなと思う事前講義
	オスキー対策、CBT対策、国家試験対策、公務員試験対策。
事前講義を観ずに実習に参加した。	動物の扱い方、実習手技の映像など。
環境衛生に関する講義。	コアカリキュラム制度が整いつつあるが、大学ごとに専門的な分野を持つ講座あり特色があるともうので、それを活かした講義。
授業自体はとても充実していた。	業務の内容だったりこういった防疫対策をしているかといった、ある程度硬めの講義だったため、もっと職場のアピールだったりスライドを使わず実際に動物を扱って説明しているものがあると、様々なことに興味を持てる。
馬の跛行診断の見分け方。	クイズ形式で国試対策。
今回の内容で十分。	獣医国試対策。
今のままで十分。	それぞれの道に進んだ獣医師の方の就職活動授業。
心エコーやレントゲンの説明。	肉眼解剖の授業（解剖していった筋の同定、分離等）。 獣医国家試験対策。
飼料に関する法律についての講義。	働く獣医師の仕事についての考えや就職してからの感想がわかる授業。
Let us have a better understanding about the purpose of the meeting. And it helps a lot.	
OIE 全体の活動についての講義は充実していた。	この一年の世界や国内の公衆衛生上の問題など、時事的な要素のある講義。

<平成28年度春期>

実習に関して、あればいいなという講義	実習に関係なく、あればいいなと思う事前講義
難しいとは思いますが、各都道府県別の取り組みや特色などを簡単にまとめたもの。保健所勤務獣医師の具体的な職務内容の講義。	公衆衛生獣医師と他分野の獣医師との関わりについて。
まとめの動画(スライドのみ)。	獣医 CBT 対策。
	国試対策。
	CBT 対策授業。
各受け入れ機関の業務概要（受け入れ機関が作成したもの）。	

場所選びに役立つ説明（ここの自治体はこういう面で強みがあるなど）。	公務員試験対策。
	もう少し図やイラストを用いた、楽しく分かりやすい講義。
	国試、CBT、OSCE 対策動画。
保健所の業務に関する講義。	
と畜場でよく見られる疾患とその病変。	
かなり広くカバーしていたので、特にない。	国試対策。

5.2.2. 実習担当窓口からの意見

実習担当窓口から寄せられた実習システムに関する意見、WEB ページに関する意見、そしてその他の意見を参考資料 4 (A) に示す。

今後は「悪かった点」として挙げられた部分を改善してゆく必要がある。

5.2.3. 実習受入機関からの意見

実習受入機関から寄せられた実習システムに関する意見、WEB ページに関する意見、そしてその他の意見を参考資料 4 (B) に示す。

今後は「悪かった点」として挙げられた部分を改善してゆく必要がある。

5.2.4. 募集要項への記載内容における注意点

WEB ページに記載している各自治体・機関の実習募集要項には、実習期間、対象学年、募集人数などが明記されている。平成 28 年度春期実習において、「対象学年に在籍しているが、年齢が自治体採用要項基準を満たしていない」学生からの応募があった。本事業が、大学卒業後に公共獣医事を担う獣医師（公務員職など）の養成を目指していることから、自治体採用要項基準を満たしている学生に実習へ参加してもらいたい、という自治体からの意向が今回初めて明らかとなったことから、今後は、実習募集要項へ対象学年だけではなく、上限年齢もしくは自治体採用要項に準じる者等の記載が必要となると考えられる。

また、応募学生確保のために「自治体出身者を優先する」といった合格基準の明記を

していない実習先があるが、選考の結果不合格となる学生数を減らし、実習先と学生のマッチングをよりよくするためにも、合格基準は全て募集要項に明記する必要があると考えられる。

5.2.5. その他

・実習先と学生のマッチング方法改善

平成 26 年度から平成 28 年度までは、1 次募集期間に 1 か所の実習先、2 次募集期間に 1 か所の実習先、3 次募集期間に 1 か所の実習先へ応募をすることが可能な形態を取っており、実習期間が重ならない場合は複数の実習先へ参加することが可能となっていた。しかし、学生からの応募が無い実習先出てきており、どのように改善するかが課題である。改善方法の例として、1 回の募集期間に第 1 希望から第 3 希望までの実習先を学生に明記してもらい、その中でできるだけ学生を振り分ける方式がある。この方法を取ることで、学生からの応募が無い実習先の数を抑えることができると考えられる。

・学生への合否連絡方法

平成 26 年度から平成 28 年度までは、学生へメールにて直接合否を通知していた。学生に対して、メールの受信許可設定を行うように通知はしていたが、メールが受信側で迷惑メールボックスに入ることが多く、受信に気づかない学生が多く見られた。これらを回避するためにも、WEB の応募画面上（マイページ上）において合否を確認出来るようにシステムを改修する必要があると考えられる。

・実習参加決定後の辞退に関する対応方法

実習応募学生の増加と共に、実習参加決定後に辞退をする学生が出てきた。不合格者になった学生に対する配慮のためにも、今後は「合格の辞退不可」等を周知するなど、対策を検討する必要がある。

5.3. 学生の認知度向上の必要性

5.3.1. SNS を利用したネットワーク構築

平成 27 年度から平成 28 年度は FaceBook のページを情報拡散に使用した。学生からの意見として、情報の伝播がより速く起こる Twitter 等の使用も検討する必要がある。

5.3.2. チラシ・ポスター等による積極的周知活動

学生 1 人 1 人の手元に情報が行きわたるように、平成 28 年度には学生募集期間に合わせて全獣医学生向けに三つ折りパンフレットを配布した。平成 27 年度からの継続的な周知活動の成果もあり、平成 28 年度は最多の応募者数および参加者数となった。このことから、パンフレット、チラシ、ポスターを用いた情報周知も効果的に機能していると考えられ、今後も同様に行ってゆく必要がある。

5.4. 学生の進路追跡調査の必要性

実習へ参加したことによる学生の意識変化を調査するとともに、本事業の学生への効果を測定するためにも、実習参加学生の進路追跡調査は継続的に行う必要がある。

平成 27 年度に行った進路追跡調査では、就職先を公務員獣医師・独立行政法人・民間企業という大きなくくりで調査を行ったが、今後は公務員獣医師については公衆衛生分野と農林畜産分野別のデータを収集するとともに、VPcamp 参加者に占める実際に公務員獣医師となった学生の割合と非参加者に占める割合の比較分析を行うことで、本事業の効果を調査する必要がある。

参考資料 1

追加アンケートの設問

学生アンケート（追加実施）

実習へ参加したことによる意識変化を調査する目的で、今までにVPcampへ参加頂いた学生の皆さまに追加アンケートのご協力を頂いております。

5分程度で回答可能なアンケートになっておりますので、ぜひ回答にご協力頂きますようお願い致します。

☆（*）印は必須の回答項目です。

🌸 回答締切：10月31日

問1 所属大学名（*）	選択してください
問2 現在の学年（*）	選択してください
問3 今までに参加したVPcampの時期（複数選択可）（*）	<input type="checkbox"/> 平成27年2～3月 <input type="checkbox"/> 平成27年7～9月 <input type="checkbox"/> 平成28年2～3月 <input type="checkbox"/> 平成28年7～9月
問4 今までに参加した実習先を教えてください。（*）	<input type="checkbox"/> 自治体（県） <input type="checkbox"/> 自治体（市） <input type="checkbox"/> 国などの機関
よろしければ具体的な実習先をご記入ください。 （記入例：札幌市、国立感染症研究所）	<input type="text"/>

◎実習前後での意識変化について伺わせてください。

問5 【1】実習前の進路の第一希望は？（*）

- 国家公務員
 地方公務員
 会社員（公務員以外）
 小動物臨床
 産業動物臨床
 その他
 上記で「その他」を選んだ際はご記入下さい

【2】現在（実習後）の進路の第一希望は？（就職先が決まっている場合はその職種を選択）（*）

- 国家公務員
 地方公務員
 会社員（公務員以外）
 小動物臨床
 産業動物臨床
 その他
 上記で「その他」を選んだ際はご記入下さい

問6 【1】実習前、公衆衛生・家畜衛生または動物福祉（愛護）行政に興味はありましたか？（複数選択可）（*）

- 公衆衛生行政
 家畜衛生行政
 動物福祉行政
 どれも興味はない
 上記で「どれも興味がない」を選んだ際は具体例をご記入下さい

【2】現在（実習後）、公衆衛生・家畜衛生または動物福祉（愛護）行政に興味はありますか？（複数選択可）（*）

- 公衆衛生行政
 家畜衛生行政
 動物福祉行政
 どれも興味はない
 上記で「どれも興味がない」を選んだ際は具体例をご記入下さい

問7 【1】実習前、特にどの分野に関心がありましたか？（複数選択可）（*）

- 食品衛生（食肉含む）
 感染症
 動物愛護
 家畜衛生
 その他
 上記で「その他」を選んだ際は具体例をご記入下さい

【2】現在（実習後）、特にどの分野に関心がありますか？（複数選択可）（*）

- 食品衛生（食肉含む）
 感染症
 動物愛護
 家畜衛生
 その他
 上記で「その他」を選んだ際は具体例をご記入下さい

問8 【1】実習前、次の施設で働きたいと思っていましたか？（複数選択可）（*）

- 動物愛護センター
 家畜保健衛生所
 保健所
 と畜場・食肉衛生検査所
 食鳥処理場
 畜産試験場
 動物園・水族館
 本庁
 その他
 上記で「その他」を選んだ際は具体例をご記入下さい

【2】現在（実習後）、次の施設で働きたいと思いませんか？（複数選択可）（*）

- 動物愛護センター
 家畜保健衛生所
 保健所
 と畜場・食肉衛生検査所
 食鳥処理場
 畜産試験場
 動物園・水族館
 本庁
 その他
 上記で「その他」を選んだ際は具体例をご記入下さい

以上の内容でよろしければチェックを入れて送信してください。

送信

参考資料 2

実習前アンケートの設問

実習前アンケート

5分程度で回答可能なアンケートになっておりますので、ぜひ回答にご協力頂きますようよろしくお願い致します。

※（*）印は必須の回答項目です。

【問1】 参加する実習先（*）	<input type="text"/>
【問2】 所属大学名（*）	<input type="text" value="選択してください"/>
【問3】 学年（*）	<input type="text" value="選択してください"/>
【問4】 進路の第一希望は？（就職先が決まっている場合はその職種を選択）	<input type="radio"/> 国家公務員 <input type="radio"/> 地方公務員 <input type="radio"/> 会社員（公務員以外） <input type="radio"/> 小動物臨床 <input type="radio"/> 産業動物臨床 <input type="radio"/> その他
上記で「その他」を選んだ際はご記入下さい	<input type="text"/>
【問5】 公衆衛生・家畜衛生または動物福祉（愛護）行政に興味はありますか？（複数選択可）	<input type="checkbox"/> 公衆衛生行政 <input type="checkbox"/> 家畜衛生行政 <input type="checkbox"/> 動物福祉行政 <input type="checkbox"/> どれも興味はない
上記で「どれも興味はない」を選んだ際はご記入下さい	<input type="text"/>
【問6】 特にとどの分野に関心がありますか？（複数選択可）	<input type="checkbox"/> 食品衛生（食肉含む） <input type="checkbox"/> 感染症 <input type="checkbox"/> 動物愛護 <input type="checkbox"/> 家畜衛生 <input type="checkbox"/> その他
上記で「その他」を選んだ際はご記入下さい	<input type="text"/>
【問7】 次の施設で働きたいと思いませんか？（複数選択可）	<input type="checkbox"/> 動物愛護センター <input type="checkbox"/> 家畜保健衛生所 <input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> と畜場・食肉衛生検査所 <input type="checkbox"/> 食肉処理場 <input type="checkbox"/> 畜産試験場 <input type="checkbox"/> 動物園・水族館 <input type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> その他
上記で「その他」を選んだ際はご記入下さい	<input type="text"/>

以上の内容でよろしければ下記の□にチェックを入れて送信してください。

参考資料 3

実習後アンケート（記述式）回答一覧

- (A) 実習について
- (B) 自由感想記入欄

(A) 実習について

(H28 年度 春)

参加機関	良かった点	悪かった点	実習についての感想	実習に参加した理由	実習後に変化したこと
愛媛県	職員皆さんとても親切でした。カリキュラムがとても面白く、学校では目にする事のない内容でした。	特に感じませんでした。	公務員としての獣医師の職種やあり方、見えないところにいるんな仕事があるということを知ることができ大変勉強になりました。都道府県によって、動物保護や処分、食肉衛生管理の方法など違うということにも驚きました。命と食の大切さと、それを守っていく者の意識の大切さを痛感したとても充実した5日間でした。	具体的にどんな仕事内容かがわからなかったが、責任とやりがいをもって実際に現場で働く方の声を聴けた。また、ライフワークバランスについても考えさせられた。	命の大切さを知り、またその啓発をしていかなければいけないという責任を感じた。
愛媛県	・事前に日程やプログラムが決まっているので、予定を立てやすく、予習もしやすかった。 ・事前講義を視聴することで、より深く実習内容を理解することができた。	悪い点ではないのですが、実習チェックリストの参加前に調べる項目について、県のホームページを見ても職員数が書いておらず、人数がわからなかった。	公衆衛生に限った実習に参加することは今回が初めてでしたが、今まであまり関心を持てなかった分野にも興味が湧くようになりました。特に、大学では授業でしか関わることが出来ない動物愛護や屠畜などについて、実際に自分の目で見て肌で感じることも出来、非常に貴重な経験をする事が出来た。	公務員と臨床で迷っていましたが、公務員の道へ進みたいという気持ちが強くなりました。また、今まで訪れた事のない県での実習でしたが、実際に6日間宿泊してみても住みやすい町で親切な方ばかりでしたので、ご縁があれば就職してみたいと思いました。	
越谷市	講義と実習を続けて行うため理解を深めやすい実習内容であった。	職員の皆さんがVPキャンプについて把握しきれずに任されているからやるという形になってしまっていた。	何より5日間で公衆衛生公務員の仕事の概要を知ることができたため将来のビジョンが見えやすくなりました。	事前に調べることをあまりしていなかったため。	公務員の仕事を全く知らない人からある程度知った人になった
越谷市	シラバスが配られていたため毎日の実習が明確にできた	急遽キャンセルになってしまったことなどが補填が欲しいと感じた。	短い時間で概要を知りながら公衆衛生獣医師の役割を学ぶことができ就職検討にとっても役立ちました。	詳しく公衆衛生獣医師の役割を知ることがつながった	公衆衛生により深い知識を持った獣医師